

「最低の生活」可能性誰にでも

受給者で生きる

下

2台の本棚には、2000冊を超える本が詰め込まれていた。アリストテレスの入門書や太平洋戦争をテーマにした書籍……。

「高校の頃は、技術者か研究者になりたかった」

1946年、終戦直後の貧しい時代に生まれ、市内の工業高校に進学した。友達と自家製のランプを作り、卒業制作には、レーザー

12年前から金沢市で生活保護を受ける真田芳弘さん(75)は、築40年超の木造アパートを借り、一人暮らしをしている。

部屋の中央に置かれたこたつ机は、台所にも、食卓にも、布団にもなる。その上に置かれたランプと小型テレビが、部屋の唯一の明かりだ。

ランプに照らされて、心臓病の薬や、電気コンロとともに、「一般相対性理論」と書かれた大判の本が無造作に置かれていた。

「小難しい本が好きなんだよね。なにか分からないことがあると、ととん突き詰めちゃうんだよ」



机の上に置かれた「一般相対性理論」の本。高校の時は、技術者か研究者を夢見た。「どうしても知りたくなって、(本を)買っちゃうんだよね」。ただ、生活保護の受給後はなかなか買えない＝金沢市内の自宅

「装置にも挑戦した。高校卒業後は大手電機メーカーに就職し、県外へ。7、8年働いた後、石川県内に戻り、内線工事の会社に入った。約10年修業を積み、その後独立。30代後半で、ロケットなどの製造も手がける大手企業と個人契約を結んだ。工事現場で、車を輸送するベルトコンベヤーのシステム管理や、現場の安全管理も任せられ、60歳ごろまで働いた。ある程度の貯蓄もできた。「C言語」はこの時学んだものだった。

「有名な会社のでかい仕事をもらえて、誇れる仕事だったね」

そんな生活を「変えた」のが、2008年のリーマン・ショックだった。

本棚には、「株」や「金融」の本も30冊ほど並んでいる。現場の仕事と並行して10年ほど勉強し、「株で食って生きていこう」と決めていた。

しかし、全財産を当時ブームの不動産ファンド1社につき込んだ結果、リーマン・ショックで株価が大暴落。その後、会社は上場廃止となった。

「そこにおれの全財産も入っていたって訳さ。バカやっちゃったよ。はは」

そう笑い飛ばすが、当時は「仕事も、生きる希望もなかった」。1カ月半断食して自殺を図るも、家賃の取り立てに来た大家に救われた。その後、大家に言われ、生活保護を受けるようになった。

「有名人会社のでかい仕事をもらえて、誇れる仕事だったね」

そんな生活を「変えた」のが、2008年のリーマン・ショックだった。

本棚には、「株」や「金融」の本も30冊ほど並んでいる。現場の仕事と並行して10年ほど勉強し、「株で食って生きていこう」と決めていた。

読書は、お酒とともに数少ない楽しみの一つ。ただ、酒は食費を切り詰め、スーパーで一番安い2リットル00円程度のものを3日かけて飲めるが、書籍は買う余裕はない。本棚の本も、全て2回ずつは読んだと思う。

「高収入のエリート裁判長には、分からないでしょうね」。真田さんは、どこか納得したように言う。

自分もかつてはそうだったからだ。実際に「最低の生活」を始めて、やっとそのつらさが分かった。

自分自身は独り身で仕事をすることもなく、「このままでもいい」と思う。でも、家族連れの失業者やシングルマザーを思うと、この生活は「あまりにも厳しい」。

「事故や大げな不景気。いつ、なにが起こって、みなさんがここに来るか分からないんですよ」

金沢訴訟の原告団は8日、地裁判決を不服として控訴した。 〓おわり

(この連載は平川仁が担当しました)

しかし、全財産を当時ブームの不動産ファンド1社につき込んだ結果、リーマン・ショックで株価が大暴落。その後、会社は上場廃止となった。

「そこにおれの全財産も入っていたって訳さ。バカやっちゃったよ。はは」

そう笑い飛ばすが、当時は「仕事も、生きる希望もなかった」。1カ月半断食して自殺を図るも、家賃の取り立てに来た大家に救われた。その後、大家に言われ、生活保護を受けるようになった。

「高収入のエリート裁判長には、分からないでしょうね」。真田さんは、どこか納得したように言う。

自分もかつてはそうだったからだ。実際に「最低の生活」を始めて、やっとそのつらさが分かった。

自分自身は独り身で仕事をすることもなく、「このままでもいい」と思う。でも、家族連れの失業者やシングルマザーを思うと、この生活は「あまりにも厳しい」。

「事故や大げな不景気。いつ、なにが起こって、みなさんがここに来るか分からないんですよ」

金沢訴訟の原告団は8日、地裁判決を不服として控訴した。 〓おわり

(この連載は平川仁が担当しました)

「高収入のエリート裁判長には、分からないでしょうね」。真田さんは、どこか納得したように言う。

自分もかつてはそうだったからだ。実際に「最低の生活」を始めて、やっとそのつらさが分かった。

自分自身は独り身で仕事をすることもなく、「このままでもいい」と思う。でも、家族連れの失業者やシングルマザーを思うと、この生活は「あまりにも厳しい」。

「事故や大げな不景気。いつ、なにが起こって、みなさんがここに来るか分からないんですよ」

金沢訴訟の原告団は8日、地裁判決を不服として控訴した。 〓おわり

(この連載は平川仁が担当しました)